未来都市創造に関する特別委員会行政調査報告

未来都市創造に関する特別委員会委員長　黒　田　武　志

１．日程

令和５年 12 月 12 日（火）

２．調査項目・場所

（１）岡山県奈義町

・子育て支援策・地方創生事業の取り組みについて

・なぎチャイルドホームについて（現地視察）

（２）一般社団法人奈義しごとえん

・「しごとコンビニ事業」について

３．委員長所見

（１）岡山県奈義町

岡山県・奈義町は、合計特殊出生率が平成 17 年に 1.41 まで下がっていたが、平成 24 年に「奈義町子育て応援宣言」を実施。独自の子育て支援策や若者定住施策を導入した結果、令和元年には日本トップクラスの 2.95 という驚異的な数字を達成。少子化対策の「奇跡のまち」として全国から注目を集めている成功事例を学ぶために奈義町を視察しました。

小坂副参事からご説明があったように、陸上自衛隊日本原駐屯地に常駐している隊員の再編による影響を受け、翌年は 2.2 に下がり、出生率の維持も険しい状況のようで、毎年一喜一憂することはないとのこと。

中心部から半径２km 以内に人口の８割が定住し、役場、美術館、図書館、保育園、幼稚園、小中学校、子どもの見守り施設、子育て中の母親等を対象とした就労斡旋施設や定住促進住宅、市が誘致した工業団地、病院などが立地するコンパクトシティです。

「少子化対策は子育て世代だけの問題ではない。少子化による人口減少は、奈義町に住むすべての人に関係する課題であり、住民と一緒に課題を考え、少子化対策は最大の高齢者福祉である」という考え方が町全体で共有されており、少子化対策・子育て先進町としての強い想いと機運を感じました。

高い合計特殊出生率の鍵は、一言で言えば「安心感」です。

住むところがあって安心

働くことができて安心

子育ての負担が軽くなって安心

子育ての悩みが喜びが共有できて安心

町のみんなが子育てを応援してくれて安心

なぎチャイルドホームや、奈義しごとえんを含め、奈義町では町全体がゆるやかに結びつき、また地域全体が協力して子どもたちの成長を支える活動が展開されている印象を受けました。

日本全体で人口減少が進んでいる中、人口が 150 万人規模の神戸市と、奈義町とでは施策の取り組みやアプローチに違いはあるが、例えば校区単位での実証をするなど、奈義町の少子化対策と子育て支援施策の成功事例を神戸市に反映できるよう委員会の提言に活かしてまいりたい。

（2）なぎチャイルドホーム

現地視察した「なぎチャイルドホーム」は、子育て世代が気軽に通える施設として開放されており、常駐する子育てアドバイザーに育児に関する相談にのってもらったり、子供の社会的経験の場になるような活動を行ったりしています。地域住民による子どもの一時的な預かりや親子向けのイベントなども実施しています。

奈義町の人口規模を考慮すると、この子育て支援施設は非常に充実しています。施設の案内とスタッフとの対話を通じて、そのスマートな運営と堅実な印象に深く感銘を受けました。ハード面だけでなく、スタッフの運営もしっかりしており、この町に住んでいたら何度でも子供を預けたくなるような雰囲気が漂っていました。これはまさに、子どもたちにとって第三の居場所として理想的な環境が整っていると言えると思います。

（３）一般社団法人奈義しごとえん

奈義町では、「しごとコンビニ事業」として、町民主体で法人化した一般社団法人「しごとえん」があり、人・地域・仕事をつなぐ「ちょっと手伝ってほしい」「ちょっと働きたい」を結ぶ取り組みを行っています。ガソリンスタンドの跡地を利用した「しごとスタンド」では、大人が交代制で子どもたちを見守る仕組み「こもりん」の事業も実施しています。

想像していたより、少し手狭であったが、子育て中のお母さんも働けるよう、お母さん同士で子供を預けるスペースも設けられており、機能的に整備されていました。子育て支援に対する熱意と本気度を感じ、地域全体で協力して子育てを支えることで、シニア世代が元気を得る取り組みが実際に実践されていることを目の当たりにしました。